
コロナ禍での初年次教育における 新入生支援とその課題

亀井美穂子 宮下十有 木田勇輔 福安真奈 脇田泰子

1. 研究の背景

1.1 背景

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）感染拡大の影響を受け、日本国内では2020年4月以降多くの大学で、学生を通学させて行う「面接授業」が実施できない状況となった。文部科学省調査「新型コロナウイルス感染症対策に関する大学等の対応状況について」によると、4月23日時点では全体の約9割が授業開始延期を決定（文部科学省 2020a）、その後5月20日には、全体の約8割において「面接・遠隔を含む授業」が実施され、その約9割が「遠隔授業」と回答している（文部科学省 2020b）。

相山女学園大学文化情報学部メディア情報学科（以下、本学科）もまた、他大学と同様、新年度の授業開始が延期された。まず3月23日付けで4月20日に延期され、その後4月6日付けで5月11日への延期が決まった。授業開始後は、7月7日以降、制限付きで大学への一部入構は可能になったものの、前期は原則遠隔授業となった。新入生は4月1日に行われた新入生ガイダンスに1日通学したのみである。

このような授業開始時期における大幅な遅れや、1ヶ月という短期間での遠隔授業への移行は、2020年度の新入生にとっては、非常に大きな負荷となったと考えられる。現在多くの大学では、

新入生に対して半年から一年かけて「大学生になることを支援するプログラム」（文部科学省 2008）として「初年次教育」を取り入れている。初年次教育が扱う内容は、アカデミックスキルだけでなく、人間関係、コミュニティ活動といった大学生活の基本的スキルなども重視されている（山田 2013）。非常事態とはいえ、遠隔授業のみで基本的なスキルを育成するために、多くの大学で、これまでにない対応が求められたと推測される。今後、今年度と同様の状況が続かないとも限らない。非常事態をある程度想定した耐性のある新入生への支援策を検討する必要がある。

そもそも、感染拡大による悪影響を被る若き学生たちへの働きかけとして、本学科が最初に動いたのは、新入生入学前月の3月であった。卒業式も卒業パーティも中止に追い込まれ、何の節目の行事も経ないまま突然、思い出のキャンパスを後にせざるを得なくなった19年度卒業生に向け、激励を兼ねて卒業を祝う映像メッセージをWebに上げる企画が呼び掛けられた。背景には、各教員の祝賀メッセージ映像を毎年、学科有志が撮影・編集して卒業パーティ会場で流している実績がある。よって、映像さえ撮れるならば、たとえ会場が存在しなくとも、期間限定でYouTubeに上げるにより、卒業生の門出を祝う学科としての変わらぬはなむけの意をせめて遠隔であっても伝えることが可能なのでは、という提案が3月9日に学科から成された。早くも3日後の12日には映像教育担当教員らの尽力により、一本化された映像

がアップロードされた。これについては、学部の下承も得たうえで学部サイトにも14日付で「メディア情報学科卒業生の皆さんへ」と題して期間限定映像配信の告知をS*mapのジャーナルとの連動により掲載した。

メディアを介したコミュニケーションのあり方について考え、実践することは本学科の学びの根幹でもある。したがって、このような歩みを学科として共有する中から、年度が変わり新入生を受け入れる際にも、まずは歓迎メッセージを発信し、次にメディアを駆使した彼女たちとのやり取りにより、環境の大きな変化に伴う目に見えない不安を一つずつ取り除くきめの細かいケアを行いつつ、実際の教育の場へと次第にいざなっていく形が段階的に採られてきたとしても、それはある意味コロナ如何にかかわらず、学科としては極めて自然な流れであると考えられる。

1.2 本研究の目的と方法

本研究では、本学科の初年次教育担当者を中心として行われた、2020年度前期における新入生への情報提供や支援について整理し記録するとともに、新入生の不安が数ヶ月の間でどのように変化したのかを明らかにし、今後の新入生への支援策を検討することが目的である。初年次教育の1年生前期の授業である「ファーストイヤーゼミ（以降、FYZ）」は、2011年以降、6名の教員が授業内容を分担し、各クラスに割り振られた学生の指導を担当するなど、組織的に運用してきた（亀井ら2013）。本年度の授業開始に際しては、担当者が授業開始前の4月から準備を進め、新入生とコミュニケーションをとってきた。本年度のFYZ担当者のコーディネータが教務委員を担当していたこともあり、初年次教育担当者だけでなく、教務委員、学科主任と連携をとりながら進められた。

4月度の学科会議（4月7日）において、FYZコーディネータから新入生歓迎メッセージ（活字・次いで映像）を授業のLMSとなる学習支援システムWebClass上に掲載する提案が成され、教員有

志がこれに参加した。その後、FYZの担当者は、授業前の4月から5月にかけて新入生とのチャットを実施した。本稿ではその記録と、授業開始後の6月から8月にかけて、スタディ・スキルとキャリア教育の一環で行われた、上級生との交流後に得られた新入生の回答を分析対象とした。

2. 授業前チャットによる支援

2.1 概要

FYZコーディネータが中心となり初年次教育担当者4名が、授業開始1ヶ月前より、学習支援システム「Webclass」のチャット機能（図1）を用いて、新入生とコンタクトをとってきた。第1回は4月9日、FYZが行われる曜日・時間帯である木曜日15時より開催した。新入生へのアナウンスは、全学システム「S*map」を使って行われた。教員は、Microsoft Teamsのオンライン会議で情報交換しながら、学生の質問に答えた。



図1 Webclass チャット画面

第1回は新入生13人が参加した。この時の新入生の要望や反応を受けて、授業開始までの毎週実施することになり、1ヶ月間で合計5回、各2時間行った。文字情報中心のチャットを使った理由は、新入生の自宅のインターネット環境が不明で

あったこと、また若者の間ではTwitterやLINEなど、文字によるコミュニケーションに抵抗がないと考えたためである。

回を追うごとに徐々に参加者は増えた(表1)。第1回から第4回までは、自主的な参加の側面が強かったが、第5回は、本学部によるオンライン会議システムZoomの接続テスト要請に伴い、新入生にはその結果をチャットに報告してもらった。チャットでのやりとりは後日Webclass上で参加しなかった本学科の新入生にも公開した。

表1 授業前チャット参加者数

回	日時	参加者(人)	発言数
第1回	4月9日	13	46
第2回	4月16日	31	68
第3回	4月23日	27	110
第4回	4月30日	39	177
第5回	5月7日	75	151

※教員の発言は除く

表2 授業前チャット参加回数別

参加回数	参加者(人)	割合
1回	36	33.0%
2回	20	18.3%
3回	13	11.9%
4回	10	9.2%
5回	6	5.5%
参加あり計	85	78.0%
参加なし	24	22.0%
計	109	100.0%

チャットに5回とも参加した新入生は6人、4回参加したのは10人、3回参加したのは13人であった(表2)。1回でも参加した新入生を含めると、全体の約8割がチャットによる交流に参加した。

2.2 新入生の投稿内容

(1) 手続き

対象とした5回分のチャットの記録では、いずれも、教員からの自己紹介や主旨説明、連絡先登録への呼びかけから始まり、続いて学生の挨拶や自己紹介の投稿、その後、質問とそれに対するやりとりが行われていた。ここでは、学生のチャットの内容を、まず「挨拶・自己紹介」、「質問」、「応答」「(学生からの)情報共有」に分類した。本稿では、新入生の疑問や不安の把握のため、質問の内容を中心に、その傾向を整理した。

(2) 結果

第1回は、機材(パソコン)に関して「指定、または推奨するパソコンなどはありますか?」(hs6)、「自分専用のものがあつた方がいいですか?」(ia0)という質問が寄せられた。また、遠隔授業の見通しについて「コロナウイルスが今以上に拡大した場合授業開始日がさらに遅れることってありえますか?」(im5)、「今後のコロナウイルスの感染拡大によってはすべての授業がオンラインになってしまう事もありますか?」(hm2)などの質問が寄せられた。また「教材が必要な授業は大学まで教材を買いに行かなければいけませんか?」(hm2)といった教科書についても寄せられた。始まりは緊張気味の投稿が続いたが、最後の方では、授業開始前までの過ごし方についても話が及び、「先生方おすすめの映画をぜひ教えてほしいです!」(im5)という質問も寄せられ、終了間際には、「先生方のお話を聞ける機会がいままで無かったので、このような形で話が聞けてよかったと思いました」(hs6)、「不安だったことが聞けて良かったです!」(om8)、「画面越しではありましたが、先生方とこのように対話をさせていただくことができて不安と緊張が解れました」(tr7)とあるように、参加者にとって不安軽減の場になった様子がうかがえる。

第2回のチャットでは、質問内容は、オンラインの準備について、前回より踏み込んだ質問、例

えば「オンライン授業が始まった場合、何かパソコンやカメラ以外にも用意しておくものなどがありますか?」「オンライン授業の専用のアプリ等を入れたりしないとイケないとか」(yk8)、「カメラは必ず必要ですか?」(im5)、「オンライン授業になった場合、こちら側の映像も送ることになるってことでしょうか?」(ts6)、「オンライン授業の練習に試しておくとも良いものがありますか?」(tr9)などが寄せられた。背景に、全学の遠隔授業対策チームからアンケートが実施されていたことから、遠隔授業の準備に向けた疑問が生じたようである。

また授業への参加の仕方や抽選が行われる科目など、教務上の具体的な内容についての質問も寄せられた。例えば「オンライン授業になったら抽選はなくなりますか?」(tr9)、「5月11日から一応授業開始予定だったと思います。しかし、履修確認修正期間が14日、15日となっているのですがその期間より前に受けたい授業があった場合どうすればいいのでしょうか?」(im5)、「追加登録する前に、初回の授業から参加することはできますか?」(tr9)のように、学生の方でも準備を始めようとしている様子がうかがえる。また、1回目には見られなかった回答として、他の学生の質問に対して、「4月27日が抽選結果だったと思います」(ts6)と回答する投稿も出てきた。さらに、「なかなか発言できなかったのですが、こうして少しでも皆さんと関われるのはとてもありがたいです。分からないことも多く、不安なので……またやってくだと嬉しいですよ」(sy3)と、他の学生を意識した回答と言える。

第3回実施の頃になると、FYZ以外にもいくつかの授業で、先行的にガイダンスを行ったり課題を出したりしていたが、これらの情報は教員同士共有されておらず、FYZの教員では回答できなかったこともあり、新入生同士が情報共有しようとする投稿が見られるようになってきた。例えば、「今課題が出てるのはメディア心理学、レポート・

論文技法、メディア社会論ですね?」(iy7)、「メディア社会論のガイダンス、同じく知らなかったです……」(sa6)、「メディア社会論のガイダンスは、S*mapの授業サポートからGlexa¹⁾を選ぶと出てきました。資料と音声データが送られていましたよ」(ts6)、「レポート論文技法はお知らせとテストpdfだけだったと思います」(sa6)、「Glexaについてよくわからず、見れていなかったのなので今知れてよかったです……ありがとうございます」(sy3)などのように、学生からの情報共有が見られた。

第4回は、学籍番号偶数と奇数の2グループに分かれてチャットを行った。グループが分かれたことで話しやすさにつながったのか、「iPhoneでS*mapのアプリをインストールしたいのですが、ユーザー名やパスワードが認証されません。どうしたらいいですか?」(fa0)という質問に対して、別の学生から「もう解決されているかもしれないですけど、私もはじめそうだったんですが、それは無視してスマホのホーム画面にもどるとどこかにインストールされていると思います!」(ts6)といった情報共有も見られた。「Google Classroomの遠隔授業入門のところに来てた課題、小レポート課題って皆さんやりましたか?」(iy7)という質問に対して、「テスト課題的なものだったので手をつけてないです」(tr9)などのような情報共有も見られた。

第5回の質問内容は、授業開始4日前ということもあり、「外国語の英語AのGoogle Classroomへの招待みたいなのは皆さん来てますか?自分来ていなくて」(ik1)、「すべての教科でGoogle Classroomを使用するのでしょうか、まだクラスコードがない教科が多いので不安です」(mm0)といったLMSへの参加に関する質問や、「今日の修正期間に登録した授業について私は抽選とかではなく先着順の授業を取ったんですけど、その場合でも自分が受講可能かどうかなどの連絡は来ますか?また、来るならいつ頃に来ますか?」(yk8)

などのような履修に関する教務的な内容が中心となった。また機器に関する質問「グーグルクラスルームをPCでやるなら出来るのですが、スマホアプリでやろうとするとパスコードが必要となっていて、登録できません。どうパスコードを設定するのかわかりません」(is9)などの質問も、学生に環境に依存した質問となっていた。

(3) 考察

チャットの回が進むにつれ、最初はPCの購入に関する質問や、遠隔授業への見通しが主たる質問の内容であったが、徐々に遠隔授業に必要な環境を準備するための具体的な質問や、授業の課題、そして履修や資格科目に関する質問へと、移っていった。これは、授業開始に向け、大学や教員からの情報提供が影響しており、授業開始前に、非常に多くの情報が新入生に送られ、まだ人間関係がほとんどできていない中、一人に対応を迫られたことの現れでもある。また学習支援システムも、Webclass、Google Classroom、Microsoft Teams、Glexaなどが混在し、全学システムS*mapの情報も加わると、新入生にとっては混乱に拍車をかけただろう。学生の中には、確認不足を詫げる投稿も見られたが、情報過多の中で、質問し確認していくプロセスと、それを文字として確認できるチャットは、一定の役割を果たしたと考える。最初の頃は、学生の質問に教員が回答するというパターンが中心であったが、第3回頃からは、学生が回答する投稿が見られるようになったことから、情報交換ができる雰囲気が醸成されていたと言える。

最終的に全員がチャットに参加しておらず、全体へのサポートという点では、全学システムを使ったアナウンスには課題が残るが、不安を感じる新入生や、しっかりと準備を進めたい新入生には、チャットによる交流の場は、一定の受け皿になったと考えられる。

3. 授業開始後

3.1 授業の概要

FYZは5月13日に第1回が遠隔で始まった。最終週には面接授業を計画したが、COVID-19第2波の影響により13週ともすべて遠隔となった。

授業で扱った内容は、スタディ・スキル、文書作成、大学図書館の利用、プレゼンテーション、キャリアデザインである。スタディ・スキルとキャリアデザインは例年、4月第一週の週末に行われる「新入生研修合宿」や7月の授業の中で取り扱う。その際には2年生から4年生の上級生がチューターとして複数名参加し、授業の受け方やノートテイキングなどの基礎的な事柄などを伝え、授業の後半では、上級生が就職活動などの体験をもとに、学習計画を立てることの重要性を伝えてきた。今年度は、オンラインで上級生に参加してもらい、第5回(6月11日)には4名(2年生1名、3年生2名、4年生1名)、第9回(7月9日)は6名(2年生1名、3年生2名、4年生3名)、最終回(8月6日)は12名(2年生1名、3年生5名、4年生6名)が遠隔でFYZの遠隔授業に参加した。上級生の選定には、新入生研修合宿のチューター経験者や、学生の要望をもとに、留学経験のある学生や資格取得を目指す学生、一人暮らしの学生などの経験を持つ学生に依頼した。

第5回は、6名の上級生に10分弱話してもらい、後半、質疑応答を行った。話す内容としては、面接授業・遠隔授業の受け方、資格、サークル活動、アルバイト、就職活動についてなど、学生の視点で伝えてもらった。

第9回は、Zoomの「ブレイクアウトルーム」機能を使って、新入生を6グループに分け、上級生1名が各グループに参加して、情報提供と相談を行った。最終回も新入生を6組に分け、上級生を2人1組として各グループに参加し、15分で別のグルー

ブに移動することを4回繰り返し、多様な上級生とコミュニケーションがとれるようにした。

FYZ担当者は、授業前に上級生からヒアリングし、新入生に参考になると考えた内容を、改めて強調してほしい旨を伝え、授業実施前には、新入生の授業後の回答を共有し、提供すべき情報の対策を検討した。また授業の進め方については、上級生と協議し、決定した。

3.2 新入生の回答内容

(1) 分析の手続き

本研究で、分析対象とした3回分の新入生の回答は、授業後にWebclassを通して学生に求められた第5回、第9回、最終回の回答である。第5回と第9回は、「今日考えたこと」への授業後の回答、最終回は「ファーストイヤーゼミを通して、学んだことを踏まえて、今後の自分の目標を立てましょう」への回答を分析対象とした。回答のあった108人分について、Microsoft ExcelのSEARCH関数を用いて「不安」と書かれている回答者と回答を抽出した。1回の回答に複数回言葉が頻出している場合には1件とした結果、「不安」という言葉を使っていたのは、第5回は43名、第9回は34名であり、この傾向については(2)で、また、最終回の回答で「不安」を使っていた4名について(3)で結果を示した。

(2) 結果

第5回の「不安」が含まれる回答は43件であった。その内容は、「授業」と「大学生活」に大きく分けることができる。まず「授業」に関しては、「オンラインでの授業の受け方」(mm0)や「いきなりのオンライン授業」(ym5)に対する不安、そして「課題」については、「課題がこんなに多いと通学しだしたらもっと大変になる」(th8)、「自分の課題の取り組み方があっていいのか」(ta0)、「課題がきちんと出せているのか」(ms3)「自分がやっていることは正しいことなのか不安」(kr9)があげられている。また、「履修の仕方があって

いたか」(nm4)や「単位を落とす」(mh4)といったことへの不安や、「具体的な学びの姿勢について」(tr7)など、「授業」に関する不安が半数を占めている(表3)。

表3 「不安」の内容

	第5回	第9回
授業	23 (53.5%)	16 (47.1%)
大学生活	17 (39.5%)	14 (41.2%)
その他	3 (7.0%)	4 (11.2%)
合計	43	34

また「大学生活」では、「サークルに興味はあったが入ることで勉強と両立できるか」(sn4)や「バイトと学業の両立が、大学生活の不安な点」(im3)など、サークルやアルバイトなどの学業との両立に関するものや、「学校に行く機会がない」(ts0)、「大学生としての生活がまだ送れていないような不安」(hm7)など、現状に対する漠然としたものも見られた。なお、不安の対象が特定できない場合は「その他」とした。

第9回は、「不安」が含まれる回答は34件と、第5回からやや減少した。この時期の授業に関する不安は、「大学の仕組み、レポートがどのようなものか、本来の授業のことが掴めない」(hm7)「レポートや課題のことで、なんとなくですが、こんな文章で大丈夫なのか、構成の仕方はこれで良いのか、読みやすくなっているのかなど、不安感」(kh8)、「各授業についてやテスト対策」(kr5)、「高校とは全く違った授業形式なのでテストが不安」(sm3)のように、第5回と同様にレポートの書き方についての不安や、評価に関する不安が述べられている。また「大学生活」については、「慣れない大学生活で不安」(ic7)以外にも、第5回には見られなかった「友人関係」に関する不安が見られるようになっている。例えば「同じ学科の人の状況が全くわからず不安」(tr9)、「友達がで

きるか不安になっていた」(sh7)、「数ヶ月が経ったけれど、友達も知り合いの先輩もいないので、まだまだ不安事が沢山あった」(mm0)、「大学での友達もいなく、同じ学科の生徒と顔を合わせる機会が少ない」(ya6) などである。また、「就職についてはまだ先のことでありますが不安に感じていた」(im6) や、「現在の世界情勢から行動をすることは難しいと考えられるので、これからどうすれば良いかととても不安である」(ok6) など、就職活動に向けた不安も感じるようになっており、目の前のことだけではなく将来的な準備に向けた不安も書かれている。

(3) 結果 (不安とその変容)

次に、最終回の回答で「不安」という言葉を使っていた4名に焦点をあて、その内容について検討した。この4名は第5回と第9回ともに回答で「不安」を使っている。どのような不安を感じ、解決したのかを見ていく。引用した学生のコメントには該当する箇所を下線を付した。

① eh1 (授業前チャット3回出席) の事例

この学生は、第5回では、オンラインやレポートに慣れず、遠隔授業に不安を感じているが、先輩のノート術を聞くことで、不安がやや解消されたとしている。第9回でもこの不安は解消されておらず、さらに評価についても不安を感じているが、今の課題をしっかり受けることで、将来につながっていることを意識している。最終回では、オンライン授業で不安や悩みを、先輩との対話によって解消し、大学生活の学びへの意欲を示している。

(第5回)「先輩方のお話を聞いて、学校生活やオンライン授業への不安が少し解消された。まだまだレポートを書くことに慣れておらず時間がかかってしまい、授業日内に課題を終わらせることができていない。なので、先輩方のように課題をため込まず提出できるよう頑張りたい。また、課題を終わらせることに必死になってしまい、ノートをまとめるという作業を怠っていたので、自分のためになるノートを作成してい

きたい。」

(第9回)「今日の授業で、先輩に学校外のことにたくさん聞けたので非常に参考になった。今は、課題や授業のことで頭がいっぱいになってしまっている。学校が始まったらサークルやボランティア、趣味などいろんな経験をしていきたい。そして、就職するときに自分の経験談を生かせるようにしていきたい。また、レポートや評価について不安な点が多かった。しかし、先輩方のお話を聞いて、授業をしっかりと受けて、目の前にある課題に真摯に向き合っていきたいと思った。1年生は誰もが不安だと思うので、あまり思いつめず先生や友人に相談しながらオンライン授業を楽しめたらいいなと思う。」

(最終回)「今後の目標は、学びを充実させることだ。ファーストイヤーゼミでは、メールの送り方や図書館の利用方法、レポートの書き方などを学んだ。先輩方からのお話では、オンライン授業で不安なこと、悩んでいることを解決できた。今後は、ファーストイヤーゼミを通して学んだことを勉強面だけでなく、サークル活動など大学生活全般で生かしていきたい。そして、遠隔授業の中でも大学生活での学びをより充実させる努力をしていきたい。」

② kr5 (授業前チャット2回出席) の事例

この学生は、終始、遠隔授業に対して不安を感じている。第5回では大学生という実感が得られないことから不安を感じていたが、先輩の話から、課題を管理しようとしている。第9回と最終回では、先輩から、各授業についてやテスト対策を聞くことができ、不安が解消された、としている。最終回でも、このような先輩とのやりとりが不安を和らげたとしている。

(第5回)「今は学校にも行けずオンライン授業という、なかなか大学生という実感が得られず不安なことばかりだったので、先輩方のお話を聞くことが出来て良かったです。普通に学校に行って受ける授業とオンライン上での授業の課題量は変わってくるし、オンラインだとネットトラブルや課題がちゃんと提出されているか心配になることも多々あります。自分で好きな時間帯

に受けられるという分、溜めてしまうこともあるので、しっかり管理してなるべくその日のうちに終わらせようと思いました。」

(第9回)「オンライン授業が始まって半分が終わったけど、まだ分からないことや不安なことがいくつかあったので、それを先輩方に直接お話を聞くことが出来たので良かったです。各授業についてやテスト対策の話を詳しく聞くことができたので、先輩方の意見を参考にしてこれから頑張っていきたいと思いました。」

(最終回) 授業がオンラインという形でとても大学生活に不安ばかりでしたが、実際に先輩方に質問してアドバイスをいただけたのは、だいぶ不安が和らげました。まだ分からないことだらけですが、先輩方に聞いたことを生かして、後期の授業に取り組んで計画的に課題を終わらせて良い評価をもらえるようにしたいです。」

③sr8（授業前チャット1回出席）の事例

この学生は、第5回には、わからない課題についての対応策や、授業の受け方、課題の管理方法を先輩から聞き、参考になったと述べている。第9回ではレポートの書き方に不安に感じており、先輩から聞いたコツや向き合い方が参考になったとしている。また将来の夢についての不安も、先輩から助言をもらうことで安心したと述べている。最終回では、大学生活について不安だったことが先輩の話によって解消したことが述べられている。

(第5回)「まだ入学して少ししか経ってない中で先輩と話せる機会もなく、自分の中で不安な点も多かったので今回先輩方のお話を聞いて授業の受け方など参考になった。例えば授業や課題のことに限っては、わからない問題が出てきたら遠慮なく先生に授業前後に聞いたり、友達に聞いたりすることや、自分がいい成績を取りたい、伸ばしたいという教科は先生の前座席に座って授業を受けたりする。また、課題に関しては私はいつもクラスルームで確認しているけれど途中でどれを出してないのか分からなくなってしまうことが多いので先輩が実施していたホワイトボードに課題を書き出して終わった

ら消していく方法は自分の中で非常に良い方法だと思った。私もこれから真似してみようと思った。他にも資格のことは資料で見たりするより先輩方に直接話を聞く方がより詳しく知ることが出来た。学芸員は聞くまでどういう仕事なのかも知らなかったけれど今回の（先輩）の話を聞いて学芸員について詳しく調べて見ようと思ったし、資格を取ることも視野に入れてみようと思った。オンライン中は学校に通うことも出来ないでこのようなファーストイヤーゼミの中で先輩方の話を聞けることは非常に良かったし、今後も実施して欲しい。今日聞いた先輩方のお話を今後の大学生活に役立てていきたいと思った。」

(第9回)「今年は新型コロナウイルスの影響で対面授業ではなく、オンライン授業が主なので自分が不安だと思っていることについて先輩方からお話が聞けたのでとてもいい機会になりました。私は一番レポートの書き方について聞きたかったので今回の授業で聞くことが出来て良かったです。一つ一つの授業を大切にその課題に対して自分が思ったことや考えたことを書くことや、レイアウトとしては誰が見てもわかりやすいように書くことがコツだとおっしゃっていたのでそのことに注意しながらこれからレポート作成していこうと思いました。また、サークルに入って何かをやっていた方が就職活動の時に自分が大学生時代に何をしていたか答えられて強みになる。ということもおっしゃっていたので自分が興味あるサークルには入りたと思いました。また、私は将来の夢がまだ明確ではなく不安だったのですが先輩の中にも、どのような会社に着きたいか定まっていなかったという方がいて、焦らずに色々な会社を見て自分に合ったところを探すべきだとおっしゃっていたのでその言葉を聞いて安心しました。」

(最終回)「ファーストイヤーゼミの授業によってオンライン授業で先輩方と交流する場がなかった分、このような機会が設けられて非常に良かった。多くの先輩方のお話を聞いて、大学生活について不安だったことが解消された。他にも自分でパワーポイントを作ってプレゼンをしたり、適切なSNSの使い方など社会に出る上で重要なことをたくさん学んだ。」

④ si9 (授業前チャット1回出席) の事例

この学生は、第5回では、遠隔授業で不安を感じていたが、先輩から直接話を聞くことで、就職活動の話にも触れ、インターシップにも興味を持ち始めている。第9回ではまだ不安を感じていることを同級生が聞くことで、同じ不安を抱えていることを知る機会にもなっている。最終回でも述べているように、上級生を通して、授業だけでなく大学生活全般へ目を向け始められている。

(第5回)「コロナの影響で遠隔での授業開始となり、不安が募る毎日でしたが今回先輩方から直接大学生活についてのお話を聞け、不安が少し減りました。まだ先のことだと後回しにしていた就活の貴重なお話も聞くことができ、インターシップに興味を持ちました。一年生のうちからいろいろなことに参加して将来の選択肢を増やしていくことができればと考えます。先輩方のように勉強やサークル、バイトなどを両立し、一日でも早く楽しい大学生活を送りたいと思いました。」

(第9回)「ブレイクルームでは躊躇してしまい、中々自分から質問することはできなかった。しかし他の子が自分が不安に思っていたことを聞いてくれて、とても助かった。また、自分と同じ不安を抱えていた人があることを知る機会ともなり、少し安心した。前回同様、先輩方が私たちの質問にテキパキと答えて下さる姿はとてもカッコよく、頼もしく見えた。一年生のうちには色々なことに挑戦することが大事というお話が合ったように、アルバイトやサークル、資格を取るなど今まで体験してこなかったことに取り組み、様々なスキルを身につけていきたいと考える。」

(最終回)「ファーストイヤーゼミでは先輩方と話す機会を作っただけで、多くの疑問や不安が解消された。またこの機会を通し、今後の自分の学びや活動の計画を考えることができた。まだ具体的な将来の夢は決まっていないが、将来に向けて今から資格を取ったり、アルバイトをやってみるなど、今まで取り組んだことがなかったことにも挑戦してみる。そして卒業までに『これを一番頑張った』と胸を張って言える

ようにする。」

(4) 考察

6月には、新入生は特に、遠隔授業や課題などの授業に対しての不安や、大学生活を実感できない不安などを抱えていた。また7月になると、不安に言及する回答はやや減ってはいるが、課題や評価、テストに関する不安、さらに、友人関係ができないことへの不安、就職活動への不安が示された。その中で、授業内での上級生からの基礎的な情報提供や豊かな経験の共有は、新入生の学習の指針となり、また学生生活の見通しを持つことにもつながっていた。これは事例で示した4人に限ったことではない。最終回の回答で、「先輩」という言葉に、75人(69.4%)が触れていることから、上級生との対話は、慣れない遠隔授業や大学生活への不安軽減につながるだけでなく、学びに向かう態度を促したと言える。

4. まとめと今後の課題

本稿では、2020年4月から7月にかけての初年次教育担当者の対応と、新入生が抱える不安について検討してきた。

初年次教育担当者は4月初からリアルタイムコミュニケーションツールであるチャットを活用して、新入生がオンライン上で集まり、不安や質問を共有できる場を設定し、教員と新入生のやりとりだけでなく、新入生同士のやりとりも行われていた。授業内では、上級生が新入生に情報提供を行う場を、教員と上級生が協同して設定していた。

また新入生は、4月初旬には遠隔授業の準備についての質問や不安が多かったが、授業が始まるとその受講の仕方や、想定していた大学生活と現実のギャップに戸惑い、不安を感じていた。これに対して、上級生から、受講の対策、クラブ・サークルやアルバイトと学業の両立などの学生生活の

イメージや、留学、就職活動など、キャリアデザインに関する情報提供が、学びに向かわせていることが示唆された。

このような学生同士の対話―新入生と新入生、新入生と上級生との対話―による主体的な学びに向かわせる方策や支援は、今年度の状況下に限定されるものではない。赤澤（2020）は、Covid-19の影響を受け、急遽グループワークをWeb会議システムとグループウェアを利用し、新入生が遠隔でのグループワークに対し肯定的であったことが報告されている。今後の社会の在り方や働き方を視野に入れ、コミュニケーションツールを活用した学生同士の対話による学びを促す方法と効果を検証していくことが重要であろう。

注

1) 学習支援システムの一つ。

参考文献

- 赤澤紀子（2020）遠隔授業による大学初年次教育と上級科目のグループワーク演習実践報告。情報教育シンポジウム論文集，256-258
- 亀井美穂子・他（2013）初年次教育プログラムの実践と課題。椋山女学園大学文化情報学部紀要，13：37-44
- 文部科学省中央教育審議会（2008）学士課程教育の構築に向けて（答申）
- 文部科学省（2020a）「新型コロナウイルス感染症対策に関する大学等の対応状況について（令和2年4月23日時点）」
- 文部科学省（2020b）「新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえた大学等の授業の実施状況について（令和2年5月20日時点）」
- 山田礼子（2013）初年次教育の現状と未来。世界思想社

かめい・みほこ / 文化情報学部准教授

E-mail : kamei@sugiyama-u.ac.jp

みやした・とあり / 文化情報学部准教授

E-mail : toarim@sugiyama-u.ac.jp

きだ・ゆうすけ / 文化情報学部准教授

E-mail : kidayusuke@sugiyama-u.ac.jp

ふくやす・まな / 文化情報学部助教

E-mail : m-fukuyasu@sugiyama-u.ac.jp

わきた・やすこ / 文化情報学部教授

E-mail : wakita@sugiyama-u.ac.jp